

がくしゅういんけんどうぶ ぶ か
学習院 剣道部 部歌

高等科学生・秋田 一季、戸田 忠英 作詞

- 一 ^{さくら}桜は^{はる}春を^{かざ}飾れども ^{ちょうこんわか}長恨若^{むね}き^わ胸に湧き
^{はる}春の^{おご}驕りをよそにして ^{ぶどう}武道の^{ほまれみが}誉磨かんか
- 二 ^{たま}玉なす^{あせ}汗を^{しの}忍びつつ ^{きたえ}鍛へし^{かいなわ}腕^{かいな}吾が腕
^{せいぎ}正義を^{まも}守り^{はじ}恥を^し知る ^{われ}吾は^{まこと}誠の^{もののぶ}武士よ
- 三 ^{あきじょうほく}秋城北の^{とき}関の^{こえ}声 ^{ふよう}芙蓉の^{みね}峰に^{とどろ}轟きぬ
^{きゅうてき}ああ^{ほう}仇敵を^{ゆうこんとわ}屠らずば ^つ雄魂永遠に^ん尽きざらむ
- 四 ^{しも}霜^ふ踏み^{くだ}砕き^あ明け^まぬ間を ^{きた}来りて^{はげ}励む^{けんし}剣士かな
^{はだつん}肌^{さくふう}劈ざかん^{われら}朔風も ^い吾等が^{いき}意気を^い如何に^かせん
- 五 ^{そうりつ}創立^いここに^{いくせいそう}幾星霜 ^{れきし}歴史^{ふか}ぞ^{ぶどうじょう}深き^{ぶどうじょう}武道場
^あ嗚呼^あこの^{からだ}身体^{こころ}この^{こころ}心 ^{そこく}祖国の^{はえ}栄を^{かざ}飾らんか
^{そこく}祖国の^{はえ}栄を^{かざ}飾らんか

学習院剣道部は、明治十二年（1879）に剣道が正課として取入れられたことに発し、戦後の武道廃止の時代を経て、昭和二十八年（1953）に高等科で復興され、その後大学、高等科、中等科、初等科、そして女子部と各科剣道部が発足し、学習院の基本理念である一貫教育を初等科より大学生まで各科を通して実践している唯一の運動部である。先年に創部百三十周年を迎えた。部歌は昭和十二年（1937）、先輩達の現役支援組織「剣桜会」の設立を機に、高等科三年の秋田、戸田両先輩が作詞した。その歌詞には四季に亘る剣道の修練が読み込まれており、現在まで歌い続けられている。秋田先輩は戦前戦後半世紀にわたって剣桜会会長として剣道部の指導に当たられた。明治四十一年（1908）に目白にできた柔剣道場は、嘉納治五郎の設計した武道場であり部員に愛されてきたが、昭和五十三年（1978）の創立百周年の際に取り壊され、現在では北グランドに新たな武道場が建設され、活発な部活動の場になっている。